



環境動態部門の取組について

環境動態部門長 塚田祥文



2015年以降の主なイベントと環境創造センターの使命

フェーズ3 (2022~2024年)

- ・2023年：TEPCO福島第一原発1号機、2号機の使用済み核燃料取り出し開始
- ・2022年以降：帰還困難区域の一部（特定復興再生拠点区域）で、避難指示解除

フェーズ2 (2019~2021年)

福島の実環境の回復と新たな環境の創造に関する中長期にわたる取組

- ・2021年：初号機の燃料デブリ取り出しの開始
- ・2021年：除去土壌等の中間貯蔵施設への搬入が概ね完了
- ・2021年：復興創生期間終了（復興庁の廃止）
- ・2020年：TEPCO福島第一原発建屋内滞留水処理完了
- ・2019年：大熊町役場新庁舎供用開始

フェーズ1 (2015~2018年)

福島の復興・再建に向けた取組の着実な進展

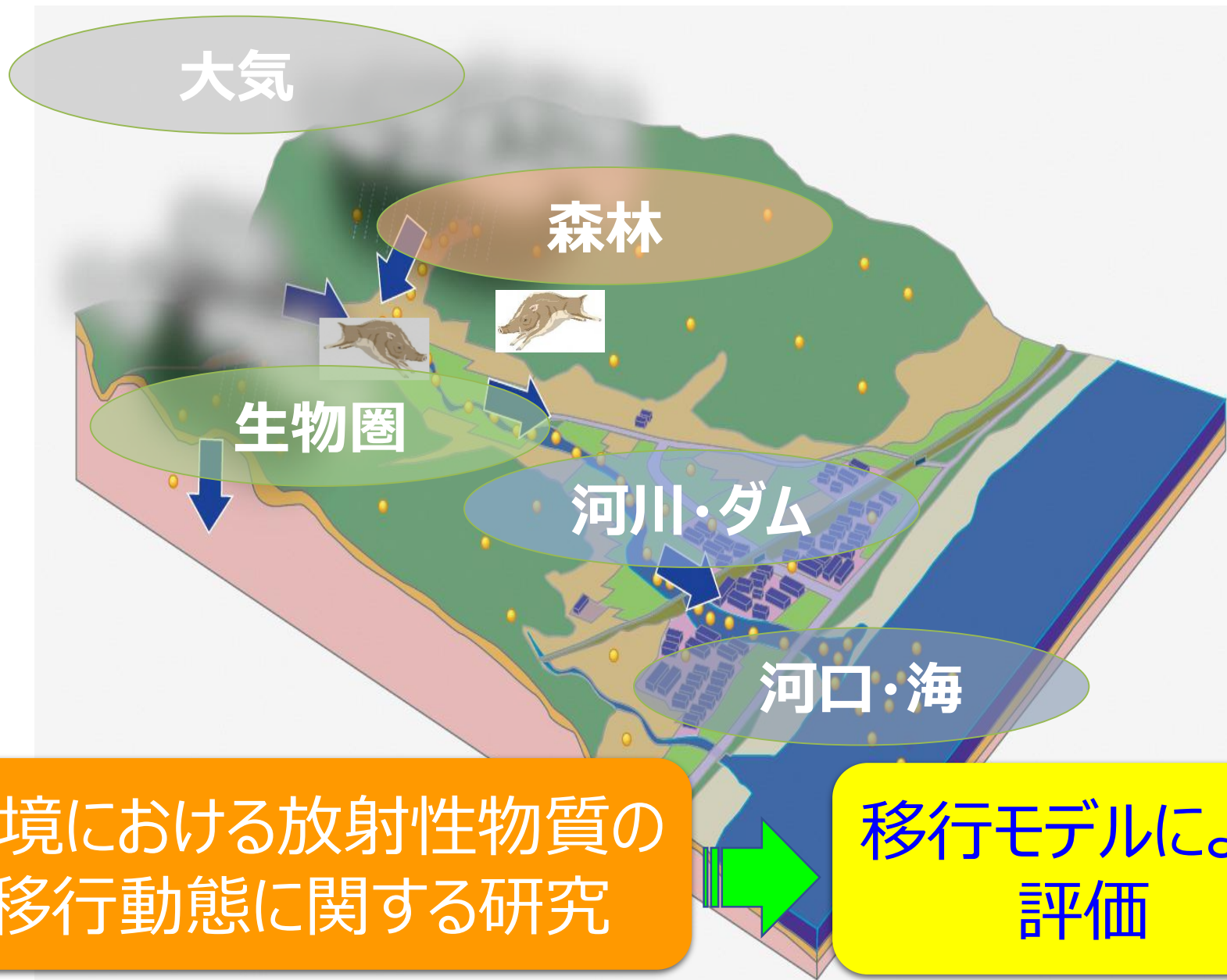
- ・2018年：計画に基づく生活圏除染の終了
- ・2017年：帰還困難区域を除く地域への帰還
- ・2015年：環境創造センター開所

調査研究

- ・移行挙動の評価
- ・移行モデルの構築・運用
- ・生態系への影響

福島・国内・国際社会への成果・情報の発信

環境動態部門研究対象域



環境動態部門フェーズ1 (2015~2018年度)

参画機関： 福島県環境創造センター
国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構福島環境安全センター
国立研究開発法人 国立環境研究所福島支部

4中区分課題：17研究テーマ

①移行挙動評価 (8課題)

陸水および流域における放射性セシウムの移行挙動の評価
モデル解析のための移行パラメータの整備

②移行モデル (5課題)

大気圏・陸圏・水圏における移行評価モデルの整備と検証

③野生生物への影響把握 (2課題)

野生動物における体内放射性セシウム濃度変化と変動要因調査

④生態系管理手法など (2課題)

帰還困難区域内外における野生動物個体数の調査と個体数予測モデル構築に向けた検討

①移行挙動評価・②移行モデル：

森林、河川等の環境中における放射性セシウムの動き (国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 主任研究員:新里 忠史)

③野生生物への影響把握：

福島県における野生動物の放射性核種汚染 (福島県環境創造センター 副主任研究員:根本 唯)

環境動態部門フェーズ2（2019～2021年度）

多様化する県民への安心・安全に応えるため、生活環境、生態系への放射能汚染による影響評価、生活環境リスク管理と環境・生態系回復手法の検討・構築

3中区分課題：12研究テーマ

①移行挙動評価（6課題）

河川流域圏における溶存態放射性セシウムの動態解析

原発周辺における放射性セシウムおよびその他の放射性物質の汚染実態把握

②移行モデル（3課題）

河川流域圏の調査で得られたデータを用いた放射性セシウムの移行モデル高度化

③生態系への影響把握（3課題）

野生生物への放射性セシウムの移行過程

住民避難など環境要因変化に伴う生態系への影響

野生動物の個体群数に関するデータの整備および個体群数予測モデル構築に向けた検討